

科目名 【英】	心理学 Psychology			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	2	学期	後期	曜日	木曜日	時限	3.4
担当教員	静間 健人	実務者経験					
学習内容	1. 科学的な心理学の研究法。 2. 知覚、記憶、学習。 3. 認知心理学。 4. 社会心理学。 5. 臨床心理学。以上の側面について学ぶ。						
到達目標	心理学の基礎知識を学び、人間の行動のメカニズムを理解できるようになること。 他者の意見を尊重しながら自身の意見を主張することができるようになること。 以上のことが期待される。						
準備学習 時間外学習	授業内容の復習が必要						
使用教材	教科書「図説 現代心理学入門（倍風館）」						
留意点 備考	適宜プロジェクターを使用しパワーポイントを呈示する。						
成績評価	筆記試験80%、小テスト・レポート20%						

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	心理学1	心理学とは何か、心理学の諸領域 心理学には様々な領域があることを説明できる。
2	心理学2	心理学の歴史 心理学がどのように発展してきたのか、歴史を説明できる。
3	心理学3	心理学研究法 心理学研究のアプローチを説明できる。
4	心理学4	感覚・知覚 日常生活における感覚・知覚のはたらきを説明できる。
5	心理学5	記憶 人の記憶には、どのような種類・働きをしているのか説明できる。
6	心理学6	学習 人における新しい行動獲得の過程を説明できる。
7	心理学7	感情 感情の種類、感情のはたらきを説明できる。
8	心理学8	自己 人が自分をどのように認知し、自分らしさを獲得していくかを説明できる。
9	心理学9	対人関係 他者に対する態度や対人関係の形成について説明できる。
10	心理学10	コミュニケーション コミュニケーションと個人間の社会的影響について説明できる。
11	心理学11	集団 集団という社会的環境が人に与える影響を説明できる。
12	心理学12	成熟と成長 人が一生を通していかなる行動変化を見せるのか説明できる
13	心理学13	パーソナリティ パーソナリティ理論、測定の仕方を説明できる。
14	心理学14	ストレスとストレス対処 ストレスと適応について説明できる。
15	心理学15	まとめ

科目名 【英】	生理学3 Physiology 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	2	学期	前期	曜日	水曜日	時限	1.2
担当教員	三島 隆章	実務者経験	2009年4月～2015年3月までは八戸大学、2015年から現在に至るまでは大阪体育大学にて、スポーツ生理学に関する講義を担当している。				
学習内容	小児期から青年期に至る発育発達特性や競技者における身体の生理学的特徴を理解すること、また、成長期を経て高齢期に至る過程で身体に生じる生理学的特徴および変化を理解することは、大変意義なものである。そこで本講義では、小児期から青年期、さらには高齢期に到るまでのライフステージに沿って、生理学的な特徴や変化を学習する。						
到達目標	小児期から青年期に至るまでの発育発達特性、競技者の生理学的特徴を理解し、説明することができる。また、高齢者の生理学的特徴および変化を理解し、説明をすることができる。						
準備学習 時間外学習	準備学習として、授業計画を参照のうえ積極的な情報収集を行った上での受講を望む。時間外学習としては、授業での学習内容を日々目や耳にする情報と関連付けて理解を深めることを望む。						
使用教材	教科書『生理学改訂第4版』（南江堂）、配布プリント						
留意点 備考	授業計画は授業の進行状況により前後することや変更する場合がある。						
成績評価	期末試験60%、毎時のレポート20%、受講態度20%						

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化1	小児期から青年期の発育曲線 小児期から青年期までの発育曲線について説明できる。
2	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化2	小児期から青年期の発育の特徴 小児期から青年期までの身長、体重、骨および筋の発育の特徴について説明できる。
3	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化3	小児期から青年期の呼吸循環系機能と運動 小児期から青年期までの呼吸機能、心臓の形態および循環機能の発達について説明できる。
4	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化4	発育期の運動不足・過運動の影響 発育期の運動不足、トレーニングの三大原則、過運動および骨の病気について説明できる。
5	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化5	運動の発達と習熟 運動の発達と習熟として、歩行と走行、持久力の発達について説明できる。
6	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化6	トレーニングによる筋・心肺機能の適応的变化および神経機構の変化 トレーニングによる筋・心肺機能の適応的变化、神経機能の変化を説明できる。
7	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化7	トレーニングによる姿勢調節能力の変化および眼球運動と姿勢制御 トレーニングによる姿勢調節能力の変化や眼球運動と姿勢制御について説明できる。
8	高齢者の生理学的特徴・変化1	細胞・組織の加齢現象 細胞、生体膜、細胞内小器官、体内水分量の加齢変化について説明できる。
9	高齢者の生理学的特徴・変化2	加齢による臓器機能の変化 加齢による神経系、運動器系の変化について説明することができる。
10	高齢者の生理学的特徴・変化3	加齢による感覚器系の変化 加齢による視覚、聴覚、嗅覚、味覚および前庭感覚の変化を説明することができる。
11	高齢者の生理学的特徴・変化4	加齢による呼吸循環器系の変化 加齢による循環器系、呼吸器系、消化器系および皮膚の変化を説明できる。
12	高齢者の生理学的特徴・変化5	高齢者に多い疾患・障害1 高齢者に多い疾患・障害としてフレイルおよび認知症を説明できる。
13	高齢者の生理学的特徴・変化6	高齢者に多い疾患・障害2 高齢者に多い疾患・障害として骨粗鬆症、転倒および睡眠障害について説明できる。
14	高齢者の生理学的特徴・変化7	運動と加齢 歩行機能、平衡機能および反応時間の加齢変化について説明することができる。
15	まとめ	期末試験のフィードバックを行うことで、講義全体の理解を深める。

科目名 【英】	解剖生理学 1 Anatomy and Physiology 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	前期	曜 日	金曜日	時 限	3.4
担当教員	永瀬 佳孝	実務者経験	1989年4月～1991年3月小曽根病院歯科、1991年4月～1993年6月中川歯科医院にて 歯科医師としての実務経験あり。				
学習内容	神経の解剖学・生理学について学習する。						
到達目標	①授業内容の各項目について知識が記憶し、図と文章を用いて説明することができる。 ②授業の各項目について、臨床との関連を説明することができる。						
準備学習 時間外学習	授業の最後に次回の講義範囲を提示するので、1年次の教科書を読んでくること。 授業の最後に記憶すべき事項を提示するので、覚えること。						
使用教材	1・2年生で使用する解剖学、生理学、一般臨床の教科書						
留意点 備 考	すべて板書するので、それをノートに手書きで書き写し、授業終了時に授業ノートの提出により出席とするので注意すること。						
成績評価	筆記試験（60）%、授業ノート（20）%、レポート（課題）（20）%、合計100点。60点以上で合格。						

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	神経 1	ニューロンの電気現象、反射 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。
2	神経 2	反射の調節－脊髄、脳幹 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。
3	神経 3	小脳の構造と運動調節 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。
4	神経 4	大脳基底核の構造と運動調節 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。
5	神経 5	大脳皮質の構造と運動調節 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。
6	神経 6	感覚の一般と体性感覚 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。
7	神経 7	視覚 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。
8	神経 8	眼球運動 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。
9	神経 9	平衡感覚 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。
10	神経 10	聴覚 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。
11	神経 11	味覚と嗅覚 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。
12	神経 12	痛覚 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。
13	神経 13	学習と記憶 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。
14	神経 14	睡眠・学習・記憶 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。
15	神経 15	自律神経系 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。

科目名 【英】	運動学 Kinesiology			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	3.4
担当教員	角田 晃啓	実務者経験	2009年より大学勤務 運動学を含む各種講義に従事 2015年より病院兼務 病院にて理学療法を実施				
学習内容	人体の構造と機能（骨、筋、神経）をふまえ、人体が空間のなかでどのように動くかを学習する。 特に重力の影響を受けた状態での運動について学習する。						
到達目標	空間の中での身体の運動を理解できる。 身体の運動に関与している骨、関節、靭帯、筋について説明できる。						
準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の予習が必要。運動学との関連を復習する。						
使用教材	教科書『運動学』（医歯薬出版）、配布プリント						
留意点 備 考							
成績評価	期末試験 100%						

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	運動学 1	運動学の目的・運動の表し方・身体運動と力学 ヒトの運動を構成する原理、法則、概念について理解し、それを説明できる。
2	運動学 2	四肢と体幹の運動 1【上肢帯・肩関節 1】 上肢帯・肩関節の構造・機能について理解できる。
3	運動学 3	四肢と体幹の運動 1【上肢帯・肩関節 2】 上肢帯・肩関節の構造・機能について理解し、上肢運動における役割を説明できる。
4	運動学 4	四肢と体幹の運動 2【肘関節・前腕 1】 肘関節の構造・機能について理解できる。
5	運動学 5	四肢と体幹の運動 2【肘関節・前腕 2】 肘関節の構造・機能について理解し、上肢運動における役割を説明できる。
6	運動学 6	四肢と体幹の運動 3【手関節・手 1】 手関節・手の構造・機能について理解できる。
7	運動学 7	四肢と体幹の運動 3【手関節・手 2】 手関節・手の構造・機能について理解し、上肢運動における役割を説明できる。
8	運動学 8	四肢と体幹の運動 4【股関節 1】 股関節の構造・機能について理解できる。
9	運動学 9	四肢と体幹の運動 4【股関節 2】 股関節の構造・機能について理解し、下肢運動における役割を説明できる。
10	運動学 10	四肢と体幹の運動 5【膝関節 1】 膝関節の構造・機能について理解できる。
11	運動学 11	四肢と体幹の運動 5【膝関節 2】 膝関節の構造・機能について理解し、下肢運動における役割を説明できる。
12	運動学 12	四肢と体幹の運動 6【足関節・足部 1】 足関節・足部の構造・機能について理解できる。
13	運動学 13	四肢と体幹の運動 6【足関節・足部 2】 足関節・足部の構造・機能について理解し、下肢運動における役割を説明できる。
14	運動学 14	四肢と体幹の運動 7【四肢の運動 1】 各関節構造の理解に基づき、上・下肢の運動を各関節の運動に分解して理解できる。
15	運動学 15	四肢と体幹の運動 7【四肢の運動 2】 各関節構造の理解に基づき、上・下肢の運動を各関節の運動に分解して説明できる。

科目名 【英】	リハビリテーション医学 Rehabilitation Medicine			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学 年	2	学 期	前期	曜 日	木曜日	時 限	3.4

担当教員	山本 貴啓	実務者経験	1999年理学療法士免許。総合病院、通所リハ、特養、訪問リハの実務経験。2006年介護支援専門員。PT養成校（専門学校・大学）教員。
------	-------	-------	--

学習内容	リハビリテーション医学の基礎的な内容を理解する。生活機能を評価し、改善するための着眼を養う。
到達目標	リハビリテーションの理念を理解し説明することが出来る。医学的リハビリテーションにおける多職種協働によるアプローチを実践するための、専門用語を理解し説明することが出来るようになる。

準備学習 時間外学習	復習に重点を置き、講義内で示された専門用語を調べ、ノートにまとめる。
使用教材	教科書『リハビリテーション医学改訂第4版』（南江堂）配付資料
留意点 備 考	疾患別の講義については、一般臨床医学、病理学、運動学等の教科書持参を指示することがある。

成績評価	期末テスト100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	リハビリテーションの概念・歴史	リハビリテーションの概念・歴史 リハビリテーションの理念を説明することができるようになる
2	障害の捉え方・ICIDH	国際障害分類 ICIDHでの障害分類を説明できる。簡単な障害をICIDHの障害構造に分類できるようになる
3	障害と生活機能 ICF	国際生活機能分類 ICFに基づく生活機能の説明ができる。背景因子への介入方法について説明できるようになる
4	リハビリテーションでの多職種連携	リハビリテーションに関わる職種・多職種連携 リハビリテーションに関わる職種を説明することができるようになる
5	評価学 1	リハビリテーションにおける評価 リハビリテーションで用いる評価法を理解できるようになる
6	障害学と治療学 1	関節機能障害とその治療 可動域制限の原因の鑑別診断とその治療手技について理解できるようになる
7	障害学と治療学 2	筋力低下・神経障害とその治療 筋力・神経機能の評価から治療までの過程を理解できるようになる
8	障害学と治療学 3	各種治療技術の紹介（身体作業療法・精神科作業療法） 作業療法について説明できるようになる
9	障害学と治療学 4	各種治療技術の紹介（言語障害・高次脳機能障害とその治療） 言語障害、高次脳機能障害について理解し説明できるようになる
10	高齢者 1	廃用症候群 廃用症候群の各症候を理解し、その対処法を説明できるようになる
11	高齢者 2	医療制度・介護保険制度 高齢者に関連する社会制度で実践されるリハビリテーションについて理解できるようになる
12	脳血管障害 1	脳血管障害 脳血管障害の急性期のリハビリテーションを理解できるようになる
13	脳血管障害 2	脳血管障害 脳血管障害の回復期・維持期のリハビリテーションを理解できるようになる
14	パーキンソン病	パーキンソン病・神経疾患 パーキンソン病等のリハビリテーションについて理解できるようになる
15	試験解説・まとめ	前期試験を解説 前期で学習した範囲が説明できるようになる

科目名 【英】	整形外科学 Orthopaedics			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単位	1
学年	2	学期	前期	曜日	木曜日	時限	3.4

担当教員	高橋 秀郎	実務者経験	医療法人 淳良会関目病院にて脱臼、骨折の整復固定 手術助手 手術後のリハビリテーション担当 1993年9月～2013年4月
------	-------	-------	---

学習内容	柔道整復師の業務に必要な整形外科疾患の知識を得る。 柔道整復業務に必要な情報のやり取りを整形外科医と行う為の基礎知識を学ぶ
------	--

到達目標	国家試験整形外科分野の正答率80%を目指す 患者の状態から正しい病態把握ができるようになる 外傷だけでなく整形外科疾患全般の知識を身に着ける
------	--

準備学習 時間外学習	解剖学の骨、筋の知識の復習
---------------	---------------

使用教材	柔道整復学校協会 整形外科学
------	----------------

留意点 備考	教科書を熟読すること。 板書の書き写しは強制しない。書き写しに気を取られ解説の理解が疎かにならないようにする事
-----------	--

成績評価	定期試験 筆記100%
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】

1	整形外科学 1	オリエンテーション 整形外科とは 運動器の基礎知識 骨の基礎知識を説明できるようになる
2	整形外科学 2	運動器の基礎知識 筋・靭帯・腱の知識を修得し、構造と役割を説明できるようになる
3	整形外科学 3	運動器の科学、生体材料、再生医学を理解し患者説明の手段とすることが出来るようになる 整形外科的診察法の導入
4	整形外科学 4	整形外科的診察法 上肢長下肢長計測と姿勢・体幹四肢のバランス、跛行の観察ができるようになる
5	整形外科学 5	整形外科的診察法 反射 拘縮 強直 跛行 トレンデレンブルグ徴候の概念が説明できるようになる
6	整形外科学 6	整形外科的診察法 X-P CT MRI PETの適応と禁忌症について説明できるようになる
7	整形外科学 7	整形外科的診察法 骨密度測定～超音波検査を運用する知識を修得し運用の基礎知識とすることが出来るようになる
8	整形外科学 8	整形外科的治療法 観血療法、薬物療法～関節形成術について患者説明ができるようになる
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名 【英】	外科学概論 Introduction of Surgery			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	2	学期	前期	曜日	水曜日	時限	1.2

担当教員	坂口 道倫	実務者経験	外科学の臨床および教育を30年間おこなっている
------	-------	-------	-------------------------

学習内容	医療の基本を学ぶ。まず、外科学総論として外傷学や手術の基本を学ぶ。外科学各論として、各臓器の外科疾患における病態と治療法について学ぶ。
------	---

到達目標	医療における生理学と解剖学に基づいた外科臨床の考え方を身につける。さらに、基礎的な医療用語を筆記にて説明できるようにする。
------	---

準備学習 時間外学習	前回の授業を復習し、理解し暗記する。指定された個別医療単語を簡単に説明できるようにする。
---------------	--

使用教材	教科書「外科学概論」（南江堂）
------	-----------------

留意点 備考	整理された知的で美しいノートを創り上げる。授業における集中力を高める。
-----------	-------------------------------------

成績評価	前期に数回の中間・確認テストを行う。期末試験（80%）＋中間・確認テスト（計20%）で総合評価する。
------	--

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	損傷	創と傷について詳細に説明できる。バイタルサインが列挙できる。
2	熱傷・感染症	熱傷深度について説明できる。破傷風など外科感染症を説明できる。
3	腫瘍	良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを説明できる。ポールマン分類を図示できる。
4	ショック・輸液	ショックの定義を説明できる。酸塩基平衡について学問的に表示できる。
5	消毒滅菌・手術	消毒液と滅菌法を個別に説明できる。手術法を列挙できる。
6	麻酔・免疫・出血	局所麻酔について説明できる。内外出血の原因疾患を列挙できる。
7	心肺蘇生	救急医療のABCとAEDを説明できる。総論のまとめを行なう。
8	中間テスト1回目	中間テストを行ない、総論のうち理解していない項目を学習する。 個別医療関連単語について、知識を検証し確認する。
9	脳神経外科疾患	頭部外傷の病型分類を表示できる。頭蓋内出血と脳梗塞の各疾患を説明できる。
10	甲状腺頸部胸壁呼吸器疾患	甲状腺機能亢進症について説明できる。肺がん、肋骨骨折を説明できる。
11	心臓脈管疾患	虚血性心疾患を説明できる。末梢の動脈静脈疾患を説明できる。
12	乳腺疾患・腹部外科疾患	乳がんについて説明できる。腹部外科総論を説明できる。
13	腹部外科疾患	腹部外科各論を説明できる。急性腹症を表示できる。
14	中間テスト2回目	各論について系統的・総合的に確認する。個別医療関連単語について、知識を検証し確認する。
15	試験解説・各論総まとめ	理解していない項目を学習する。各論のうち特に外傷外科について説明できるようになる。

科目名 【英】	臨床柔整学 応用各論 1 Clinical Judo Therapy Advanced 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	2	学期	前期	曜日	水曜日	時限	3.4

担当教員	正木 大吾	実務者経験	整骨院開業26年目、骨折脱臼の臨床約1,000症例。
------	-------	-------	----------------------------

学習内容	各骨折、脱臼の特徴、発生機序、症状、鑑別疾患、合併症、後遺症を学び整復法、固定法、後療法を学ぶ
到達目標	転位の大きい骨折や脱臼は鑑別しやすいが小児や高齢者は軽微な外力でも骨折を起こすので臨床経験から不全骨折、若木骨折などの鑑別法を理解させる。また骨片転位の大きな場合の立体的な転位を理解させ整復操作ができるようにさせる。

準備学習 時間外学習	解剖学の骨、筋、神経の復習
使用教材	柔道整復学理論編と柔道整復学実技編
留意点 備考	

成績評価	筆記試験100点
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	柔道整復師の業務	柔道整復師の業務（外傷性疾患の施術、通所介護での機能訓練）の臨床を理解することができるようになる。
2	肘関節部の解剖と機能	肘関節部の損傷を理解できるようになる。
3	上腕骨顆上骨折1	上腕骨顆上骨折の特徴、発生機序、骨折線、骨片転位が例解できるようになる。
4	上腕骨顆上骨折2	小児肘関節部のレントゲン写真の特徴を学ぶ。成人と小児のレントゲン写真の違いを理解させ tilting angle や Baumann角を教え骨折時の骨片転位を理解できるようになる。
5	上腕骨顆上骨折3	上腕骨顆上骨折の伸展型、屈曲型骨折の発生機序、症状、肘関節後方脱臼との類症鑑別を理解できるようになる。
6	上腕骨顆上骨折4	上腕骨顆上骨折の合併症、循環障害、フォルクマン拘縮、正中・橈骨・尺骨神経損傷を学び臨床での検査法、鑑別ができるようになる。
7	上腕骨顆上骨折5	上腕骨顆上伸展型骨折と屈曲型骨折の整復法、固定法、後療法を学び理解できるようになる。
8	上腕骨顆上骨折6	上腕骨顆上骨折の後遺症を学ぶ。上腕骨特徴と複雑な骨折線が理解できるようになる。
9	上腕骨外顆骨折	上腕骨外顆骨折の pull of・push off型の発生機序、骨折線と骨片転位、整復法、固定法、後療法を理解することが出来るようになる。
10	上腕骨内側上顆骨折1	上腕骨内側上顆骨折の特徴、発生機序、骨片転位、症状、分類、が理解できるようになる。
11	上腕骨内側上顆骨折2	上腕骨内側上顆骨折の骨折型、成人と小児の違い、骨端線離開、Little leagur's elbowの病態を理解出来るようになる。
12	橈骨近位端部骨折	橈骨近位端部骨折の発生機序、骨折型、成人と小児の違い、症状、合併症が理解できるようになる。
13	肘頭骨折	肘頭骨折の発生機序、症状、固定法、後遺症が理解できるようになる。
14	肘関節脱臼	肘関節脱臼の分類、肘関節後方、前方、側方、開排脱臼の発生機序、症状、整復法、固定法、合併症、を理解できるようにする。
15	前期試験の解答と解説	前半は前期試験問題の詳しい解説と回答。後半は橈骨頭単独脱臼、肘内障の発生機序、症状、整復法が理解できるようになる。

科目名 【英】	臨床柔整学 応用各論 2 Clinical Judo Therapy Advanced 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	2	学期	前期	曜日	火曜日	時限	3.4

担当教員	上田 益嗣	実務者経験	1995年7月～2019年3月 接骨院に所属し柔整施術および鍼灸院にて鍼灸施術や鍼灸柔整の往療を行う
------	-------	-------	--

学習内容	柔道整復術に必要な下肢の外傷や障害を学ぶ。また、臨床推論を構築するための統合的知識を学ぶ。 柔道整復師に必要な項目のみならず、幅広く現代医学的鑑別診断による病態把握を学ぶ。
到達目標	柔道整復師としての観点で臨床推論、鑑別診断ができる。臨床の場において実際に活用できるレベル、かつ、柔道整復師国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	解剖学・運動学の予習が必要。一般臨床医学や整形外科学との関連を復習する。
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、教科書『柔道整復学・実技編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備考	副教材として解剖学・運動学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	原則、単元毎に小テストを実施。期末試験97%、小テスト2%、出席率1%で評価する。
------	---

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	膝関節の解剖と機能 1	評価基準・講義に関する略号・膝関節【膝関節部の解剖・下肢のアライメント・膝蓋骨の機能・バイオメカニクス】膝周辺の解剖やアライメント・機能に関して説明ができる
2	大腿遠位端部骨折 1	小テスト。前回の復習。大腿骨遠位端部骨折【顆上骨折・大腿骨遠位骨端線離断・顆部骨折】大腿骨の顆上骨折や遠位骨端線離断、顆部骨折について説明ができる
3	大腿遠位端部骨折 2	小テスト。前回の復習。大腿骨遠位端部骨折【MCL附着部裂離骨折・Periglino-Stieda骨折】MCL附着部裂離骨折・Periglino-Stieda骨折の説明ができる
4	大腿遠位端部骨折 3 下腿骨近位端部骨折 1	小テスト。前回の復習。大腿骨遠位端部骨折・下腿骨解剖【MCL附着部裂離骨折・Periglino-Stieda骨折】MCL附着部裂離骨折・Periglino-Stieda骨折の説明ができる
5	下腿近位端部骨折 2	小テスト。前回の復習。下腿近位端部骨折【顆部骨折・顆間隆起骨折・PCL附着部裂離骨折】下腿近位端部の顆部骨折・顆間隆起骨折・PCL附着部裂離骨折について説明ができる
6	下腿近位端部骨折 3	小テスト。前回の復習。下腿近位端部骨折【脛骨粗面隆起骨折・腓骨頭単独骨折・Segond骨折】下腿近位端部の脛骨粗面隆起骨折・腓骨頭単独骨折・Segond骨折について説明ができる
7	膝関節脱臼 膝蓋骨骨折	小テスト。前回の復習。膝関節脱臼【前方脱臼・後方脱臼・側方脱臼・回旋脱臼】・膝蓋骨骨折【分類・症状など】膝関節脱臼・膝蓋骨骨折について説明ができる。
8	膝蓋骨脱臼 膝の軟部組織損傷 1	小テスト。前回の復習。膝蓋骨脱臼【分類・症状など】半月板損傷【半月板の機能・損傷の分類など】膝蓋骨脱臼・半月板の機能や損傷の分類が説明できる。
9	膝の軟部組織損傷 2	小テスト。前回の復習。半月板損傷【発生機序・症状・検査法・治療法など】半月板損傷の説明ができる。
10	膝の軟部組織損傷 3	小テスト。前回の復習。靭帯損傷【十字靭帯や側副靭帯の機能、発生機序・症状など】靭帯損傷の説明ができる。
11	膝の軟部組織損傷 4	小テスト。前回の復習。小児の膝変形【原因疾患】・ジャンパー膝【オスグッド病・SLJ病等】小児の膝変形やジャンパー膝についての説明ができる。
12	膝の軟部組織損傷 5	小テスト。前回の復習。分裂膝蓋骨【疫学・分類など】・腸脛靭帯炎・鵞足炎。分裂膝蓋骨や腸脛靭帯炎・鵞足炎についての説明ができる。
13	膝の軟部組織損傷 6	小テスト。前回の復習。膝蓋大腿関節障害・関節包滑液包の異常・神経麻痺【総腓骨神経・伏在神経】膝蓋大腿関節障害・関節包や滑液包の異常・足の神経麻痺についての説明ができる。
14	膝の軟部組織損傷 7	小テスト。前回の復習。その他の疾患【悪性腫瘍・離断性骨軟骨炎・関節リウマチ・偽性痛風・大腿骨顆部骨壊死・変形性膝関節症】その他の疾患の概要が説明ができる。
15	試験解説	前期試験解説

科目名 【英】	臨床柔整学 応用各論3 Clinical Judo Therapy Advanced 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	2	学期	前期	曜日	水曜日	時限	3.4
担当教員	姫 将司	実務者経験	2010-2012整形外科で勤務、2012-2014接骨院勤務 2014-東洋医療専門学校専科教員 現在に至る				
学習内容	上肢の骨折・脱臼および軟部組織損傷を学び、柔道整復師の役割について考える。						
到達目標	1. 疾患概念を説明できる。 2. 各損傷におけるポイントを説明できる。 3. 前腕部・手関節部の解剖と機能について説明できる。						
準備学習 時間外学習	解剖に対して不安であれば予習をしておくこと。 授業中に実施する復習プリントで随時振り返りをしておくこと。						
使用教材	柔道整復学・理論編 改定第6版(南江堂) / PC / 配布資料						
留意点 備考	パワーポイントを使用するため色覚異常など配慮が必要であれば申し出ること。						
成績評価	定期試験(前期・筆記)にて100%評価とする。						

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	前腕骨骨幹部骨折①	橈骨・尺骨骨幹部単独骨折 各骨折の骨片転位を説明できる。
2	前腕骨骨幹部骨折②	前腕骨幹部両骨骨折 本骨折の骨片転位、難治理由を説明できる。
3	前腕部脱臼骨折	モンテギア・ガレアジ骨折 モンテギア骨折とガレアジ骨折の注意点を説明できる。
4	前腕遠位端部骨折①	橈骨遠位端部骨折【コーレス骨折】 症状・合併症・治療について説明できる。
5	前腕遠位端部骨折②	橈骨遠位端部骨折【スミス骨折、パートン骨折、ショウファー骨折、骨端線離開】 症状・合併症・治療について説明できる。
6	前腕部軟部組織損傷	前腕コンパートメント症候群 本症候群の病態を説明できる。
7	手根骨骨折①	舟状骨骨折【解剖学的特徴・分類・症状・治療】 舟状骨骨折の症状および難治理由を説明できる。
8	手根骨骨折②	他手根骨骨折【特徴・症状】 他手根骨骨折の特徴を挙げることができる。
9	手関節脱臼	橈骨手根関節・遠位橈尺関節脱臼・月状骨脱臼【分類・受傷機序・症状】 各損傷の特徴を説明できる。
10	手関節軟部組織損傷①	TFCC損傷【手関節部の機能解剖・症状・徒手検査・治療】 TFCC損傷の概念と症状を説明できる。
11	手関節軟部組織損傷②	狭窄性腱鞘炎、他疾患【ド・ケルバン病、マーデルング変形、キーンベック病】 それぞれの病態を説明できる。
12	末梢神経障害①	正中神経障害①【解剖・分類・概要】 正中神経障害を分類することができる。
13	末梢神経障害②	正中神経障害②【概要・症状・検査法・治療】 手根管症候群の症状を説明することができる。
14	末梢神経障害③	尺骨神経障害①【解剖・分類・概要】 尺骨神経障害を分類することができる。
15	前期内容まとめ	前期授業内容を説明できる。

科目名 【英】	柔整コンディショニング実習1 Judo Therapy Conditioning Skill Practice 1			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単位	1
学年	2	学期	前期	曜日	火曜日	時限	3.4

担当教員	岩本 暁美	実務者経験	2007年5月～2010年6月 接骨院に所属し、施術をおこなう。
------	-------	-------	----------------------------------

学習内容	柔道整復師において必要となる基礎包帯（下肢包帯、冠名包帯、肋骨骨折の固定法など）を学ぶ。
到達目標	実技試験までにすべての包帯法の走行を覚え、手早く綺麗に巻けるようになる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	4.5.6裂包帯、さらし、三角巾、厚紙副子（学校で準備）、配布プリント
留意点 備考	包帯用ファイルを持参し、挟んでいく。

成績評価	実技試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	足部の包帯 1	【足関節 上行麦穂帯】 上行麦穂帯の走行を覚え、巻くことができる。	
2	足部の包帯 2	【足関節 下行麦穂帯】 下行麦穂帯の走行を覚え、巻くことができる。	
3	足部の包帯 3	【鍔帯】 鍔帯の走行を覚え、巻くことができる。	
4	足部の包帯 4	【踵離開亀甲帯 + 三節帯】 離開亀甲帯の圧のかけ方を知る	
5	足部の包帯 5	【足部の復習】 各包帯法の走行を混乱せずに巻くことができる	
6	下腿の包帯	【下腿の包帯】 下腿包帯の走行を覚え、巻くことができる。	
7	膝部の包帯 1	【膝関節離開亀甲帯】 膝関節離開亀甲帯を覚え、巻くことができる。	
8	膝部の包帯 2	【膝関節集合亀甲帯】 膝関節集合亀甲帯を覚え、巻くことができる。	
9	冠名包帯 1	【ヴェルポー包帯】 ヴェルポー包帯を覚え、巻くことができる。	
10	冠名包帯 2	【ジュール包帯】 ジュール包帯を覚え、巻くことができる。	
11	冠名包帯 3	【デゾー包帯（簡易ver.）】 デゾー包帯（簡易ver.）を覚え、巻くことができる。	
12	冠名包帯 4	【冠名包帯の復習】 各包帯法の走行を混乱せずに巻くことができる	
13	骨折固定	【肋骨骨折 固定法（さらし・厚紙副子）】 肋骨骨折 固定法を覚え、巻くことができる。	
14	総復習	【試験に向けての総復習】 実技試験に合格できるようになる。	
15	固定法の組合せ	【肩関節上行麦穂帯 + 三角巾】 3年次に向けて固定法の組合せを知り、巻くことができる。	

科目名 【英】	柔道整復実技 1 Judo Therapy Practical Training 1			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単位	1
学年	2	学期	前期	曜日	木曜日	時限	1.2

担当教員	堀口 晃一	実務者経験	整骨院勤務 平成8年3月～平成17年7月
------	-------	-------	----------------------

学習内容	医療面接・徒手検査法・反射検査・感覚検査・運動機能検査を学ぶ
到達目標	臨床実習前教育で身につけておく基本的臨床能力を身につける

準備学習 時間外学習	一般臨床医学の検査法・リハビリテーション医学MMT、ROMを参照
使用教材	実技マニュアル・一般臨床医学
留意点 備考	実技なのでKCで白Tシャツ・短パン

成績評価	実技試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	身体触診法	四肢長・四肢周径・MMT・ROM行うことができる。	
2	体表解剖	身体各部のランドマーク・大結節・結節間溝・足背動脈・感覚検査を行うことができる。	
3	徒手検査 1	ジャクソンテスト・スパーリングテスト・上肢深部健反射・上肢病的反射を行うことができる。	
4	徒手検査 2	SLRテスト、FNSテスト、ケンプ徴候、下肢深部健反射、下肢病的反射を行うことができる。	
5	徒手検査 3	運動機能検査、(バレー徴候、指鼻試験、ロンベルグ試験)を行うことができる。	
6	徒手検査 4	腱板損傷検査法(ペインフルアーク、インピンジメント、ドロップアームテスト)を行うことができる。	
7	徒手検査 5	上腕二頭筋検査法(ヤーガソン・スピードテスト・エルボーフレクションテスト)を行うことができる。	
8	徒手検査 6	大腿四頭筋検査法(背臥位、座位、腹臥位)を行うことができる。	
9	徒手検査 7	ハムストリングス(背臥位、腹臥位)を行うことができる。	
10	徒手検査 8	膝関節検査法 1 (側方動揺性、アプレー牽引)を行うことができる	
11	徒手検査 9	膝関節検査法 2 (前方引き出し、ラックマン、Nーテスト)を行うことができる。	
12	徒手検査 10	膝関節検査法 3 (マックマレーテスト、アプレー圧迫、ワトソンジョーンズ)を行うことができる。	
13	徒手検査 11	下腿三頭筋(誘発テスト、トンブソンテスト)を行うことができる。	
14	徒手検査 12	足関節(前方引き出し、内反ストレステスト)を行うことができる。	
15	徒手検査 13	前期振り返り・総復習	

科目名 【英】	柔道整復実技2 Judo Therapy Practical Training 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単位	1
学年	2	学期	前期	曜日	火曜日	時限	1.2

担当教員	岩田 早紀	実務者経験	2013年4月～2017年3月 病院に所属 外来の物理療法をおこなう
------	-------	-------	---------------------------------------

学習内容	柔道整復理論を理解した上で脱臼整復・固定を学習する。
到達目標	実習を通じて整復法、固定法をできるようになる。

準備学習 時間外学習	柔道整復理論を復習して、スムーズに実習に入れるように学習しておく。
使用教材	実技マニュアル、配布プリント
留意点 備考	副教材として柔道整復理論の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	実技の期末試験100%
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	肩関節前方脱臼	コッヘル法で整復できるようになる。
2	肩関節前方脱臼	コッヘル法、ヒポクラテス法の違いを知り整復できるようになる。
3	肩関節前方脱臼	ヒポクラテス法で整復できるようになる。
4	肘関節後方脱臼	肘関節後方脱臼を整復できるようになる。
5	顎関節前方脱臼	口内法・口外法で整復できるようになる。
6	肩鎖関節上方脱臼	肩鎖関節上方脱臼が整復できるようになる。
7	肩鎖関節上方脱臼	肩鎖関節上方脱臼の固定ができるようになる。
8	肩関節前方脱臼	コッヘル法・ヒポクラテス法それぞれで整復できるようになる。
9	肘関節後方脱臼	肘関節後方脱臼を整復できるようになる。
10	顎関節前方脱臼	口内法・口外法で整復できるようになる。
11	肩鎖関節上方脱臼	肩鎖関節上方脱臼の整復・固定ができるようになる。
12	総復習	全ての整復法、固定法ができるようになる。
13	確認試験	全ての整復法、固定法ができるようになる。
14	総復習	全ての整復法、固定法ができるようになる。
15	試験の振り返り	全ての項目の振り返りを行い、整復法、固定法をできるようになる。

科目名 【英】	臨床実習 2 Clinical Training 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	45	単位	1
学年	2	学期	前期	曜日	木曜日	時限	1.2

担当教員	竹田 英樹 林 宏明	実務者経験	(竹田) 1997年5月～整形外科医院、2003年9月～The Sydney Shiatsu Clinic、 2008年3月～現在 東洋医療専門学校附属整骨院にて勤務。 (林) 2004年4月～2009年3月 鍼灸接骨院に所属し、施術をおこなう
------	---------------	-------	--

学習内容	医療者が臨床に必要なマナーや倫理、診察法、症例レポートの作成方法を学ぶ。 医療面接や接遇の実技を行う。
到達目標	医療人としての身嗜みを整えや接遇としての患者対応をすることができる。 一般的な内科疾患、整形外科疾患を視診から判断することができる。 外来患者の症例記録から症例レポートを作成することができる。

準備学習 時間外学習	1年次の臨床実習の復習が望ましい
使用教材	教科書『柔道整復学 理論編』（東洋療法学校協会編） 配布プリント
留意点 備考	副教材として口頭試問マニュアルや一版臨床医学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	出席率 及び 臨床実習評価表にて評価する。
------	-----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	ガイダンス	臨床実習の意義、目的、評価を学ぶ。 適切な身だしなみを実践できる。
2	医療倫理	インフォームド・コンセント、守秘義務、医療過誤、衛生観念（スタンダード・プリクシオン）を学ぶ。 インフォームドコンセントなど学んだことを説明できる。
3	診察法 1	医療面接、視診、聴診、打診、触診の意義を学ぶ。 医療面接で重要なこと、視診・聴診・触診での注意事項を答えることができる。
4	診察法 2	医療面接の意義、目的、方法を学ぶ。 情報収集、良好な医療従事者-患者関係を説明できる。
5	診察法 3	医療面接に関する基本的な考え方と技能を学ぶ。 適切な身だしなみ、言葉遣いや礼儀を実践し、病歴情報を収集することができる。
6	診察法 4	視診・聴診・打診・触診の方法を学ぶ。 診察上の内科病変、整形外科的病変を答えることができる。
7	診察法 5	接骨院で使用する一般的な物理療法器機の扱い方を学ぶ。 一般的な物理療法器機の禁忌症や注意事項を答えることができる。
8	マナー研修 1	一般的なビジネスマナーを学ぶ。 服装と身だしなみのマナー、お辞儀、会話、言葉遣いのマナーや笑顔とあいさつを行うことができる。
9	マナー研修 2	医療人としてのマナーを学ぶ。 医療人としての心構え、職場のマナー、患者対応の注意事項を答えることができる。
10	外部臨床実習 ガイダンス	外部臨床実習の意義、目的、評価方法を学ぶ。 外部臨床実習の到達目標を説明できる。

11	ロールプレイング1	症例記録を作成する際の注意事項を学ぶ。 ロールプレイングから症例記録を作成することができる。
12	ロールプレイング2	症例レポートを作成する際の注意事項を学ぶ。 症例記録から症例レポートを作成することができる。
13	ロールプレイング3	一般的な整骨院業務を学ぶ。 挨拶・事前準備（ベッドメイク, 掃除など）・事後片付け（掃除、翌施術日の準備など）・介助法（寝かせ方, 座らせ方, 起こし方, 立たせ方など）を実施することができる。
14	振り返り 1	外部臨床実習から学んだことをまとめる。 医療従事者としての自覚や感想、反省を述べることができる。
15	振り返り 2	外部臨床実習から学んだことをまとめる。 症例レポートの発表を行うことができる。
16	検査法 1	上肢の検査法を実施することができる。
17	検査法 2	上肢・下肢の検査法を実施することができる。
18	検査法 3	下肢の検査法を実施することができる。
19	リフレクソロジー-1	リフレクソロジーを理解し、実施することができる。
20	リフレクソロジー-2	リフレクソロジーを理解し、実施することができる。
21	MMT 1	MMTについて理解することができる。
22	MMT 2	MMTについて理解することができる。
23	MMT 3	MMTについて理解することができる。

科目名 【英】	柔道整復応用講座3 Course of Judo Therapy Advanced 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	前期	曜 日	火曜日	時 限	1.2
担当教員	小坂 さおり	実務者経験	1997年～2013年まで病院にて、2020年～現在までクリニックにて医師として勤務。				
学習内容	柔道整復師に必要な一般臨床医学知識を体系的に学ぶ						
到達目標	各内科疾患の特徴を理解し、その症候から鑑別診断ができる。柔道整復師国家試験に対応できるのみでなく、実臨床において活用できるレベルに到達する。						
準備学習 時間外学習	予習として、一般臨床医学の教科書を読み、新出の語句の読みや意味を調べる。講義時間の最初に前回講義内容の確認小テストを行うため、このための復習をする。						
使用教材	教科書『一般臨床医学』、配布プリント						
留意点 備 考	副教材として、解剖学、生理学の教科書は持参の必要はないが、自宅にて予習・復習に用いること						
成績評価	出席、授業態度、小テスト（6割以上正解で合格）、学期末試験の結果を総合的に判断する。						

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	呼吸器1	小テストを行う。かぜ症候群、急性気管支炎、肺炎、肺結核症、COPD、気胸、肺癌について説明できる。
2	循環器1	小テストを行う。うっ血性心不全、虚血性心疾患、心臓弁膜症について説明できる
3	循環器2	小テストを行う。先天性心疾患、高血圧、動脈・静脈疾患、不整脈について説明できる
4	消化器1	小テストを行う。食道、胃、大腸疾患について説明できる
5	消化器2	小テストを行う。肝炎、肝硬変、肝癌について説明できる
6	消化器3	小テストを行う。胆嚢、膵臓疾患、腹膜疾患について説明できる
7	代謝・内分泌	小テストを行う。糖尿病、脂質異常症、肥満症、メタボリック・シンドローム、高尿酸血症・痛風について説明できる。内分泌臓器（間脳、下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、性腺）疾患について説明できる
8	血液疾患	小テストを行う。赤血球疾患、白血球系疾患、リンパ系疾患、出血性素因（出血傾向）、血漿蛋白異常症について説明できる
9	腎・尿路疾患	小テストを行う。腎不全、糸球体疾患、間質の疾患、尿路感染症、遺伝性腎疾患、全身疾患に伴う腎障害、泌尿器科的疾患について説明できる
10	神経疾患1	小テストを行う。神経疾患の主要症候、脳血管障害、腫瘍性疾患、感染性疾患について説明できる
11	神経疾患2	小テストを行う。機能的疾患、神経変性疾患、炎症性神経疾患、神経免疫疾患、筋疾患について説明できる
12	膠原病1	小テストを行う。関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、強皮症（全身性強皮症）、多発性筋炎・皮膚筋炎について説明できる
13	膠原病2	小テストを行う。シェーグレン症候群、ベーチェット病、結節性多発動脈炎、リウマチ性多発筋痛症、リウマチ熱、アレルギー性疾患について説明できる
14	感染症・その他	小テストを行う。宿主と病原体の相互関係、感染経路、市中感染、院内感染、日和見感染について説明できる
15	試験解説	前期試験の解説を行う。

科目名 【英】	柔道整復応用講座 5 Course of Judo Therapy Advanced 5			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単位	1
学年	2	学期	前期	曜日	金曜日	時限	3.4

担当教員	西浦 弘志	実務者経験	平成8年～平成25年：熊本大学・大学院医学研究科・分子病理学講座；助教17年間、平成25年～平成26年：大阪歯科大学・薬理学講座；講師0.5年間、平成26年～現在に至る；兵庫医科大学・病理学講座・病理診断部門；助教4年間
------	-------	-------	--

学習内容	日本さらには世界の医療の現状を把握し、患者の各現状に合わせた医療計画を立案する能力を持つ柔道整復師になる基礎を学習する
到達目標	国家試験の正答率60%を目指す

準備学習 時間外学習	国家試験対策プリントの整理
使用教材	病理学概論 改定版3版（医歯薬出版）、国家試験対策プリントおよびノート
留意点 備考	授業中静粛にする

成績評価	試験100%
------	--------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	I. 病理概論・病因・国家試験問題解説・ II. 先天異常⇔後天性疾患	授業内容（病理解剖と通常・特殊・免疫染色）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。
2	III. 循環障害	授業内容（血液やリンパ循環の障害が原因の虚血・血栓・浮腫）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。
3	IV. 細胞障害	授業内容（細胞の退行性病変・萎縮・変性・壊死が原因の炎症系と免疫系への影響）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。
4	V. 増殖と修復	授業内容（組織の回復機構と回復しない増幅性と特殊性炎症）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。
5	VI. 炎症－1	授業内容（炎症関連の責任細胞の機能）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。
6	VI. 炎症－2	授業内容（炎症細胞の修復の場における働き）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。
7	VII. 免疫－1	授業内容（免疫関連の責任細胞の機能）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。
8	VII. 免疫－2	授業内容（免疫細胞の炎症の場における働き）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名 【英】	柔道整復応用講座 7 Course of Judo Therapy Advanced 7			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単位	1
学年	2	学期	前期	曜日	金曜日	時限	3.4

担当教員	西浦 弘志	実務者経験	平成8年～平成25年：熊本大学・大学院医学研究科・分子病理学講座；助教17年間、平成25年～平成26年：大阪歯科大学・薬理学講座；講師0.5年間、平成26年～現在に至る；兵庫医科大学・病理学講座・病理診断部門；助教4年間
------	-------	-------	--

学習内容	日本さらには世界の医療の現状を把握し、患者の各現状に合わせた医療計画を立案する能力を持つ柔道整復師になる基礎を学習する
到達目標	国家試験の正答率60%を目指す

準備学習 時間外学習	国家試験対策プリントの整理
使用教材	衛生学・公衆衛生学 改定版6版（南江堂）、国家試験対策プリントおよびノート
留意点 備考	授業中静粛にする

成績評価	試験100%
------	--------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	1. 衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動	心身の健康の保全を研究する学問と理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。
2	2. 健康の概念	WHOにおける健康を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。
3	3. 疾病予防と健康管理	疾病の自然史と予防を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。
4	4. 感染症の予防	感染と発病を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。
5	5. 消毒	消毒の意義を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。
6	6. 環境衛生	環境問題を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。
7	7. 試験対策	水の衛生と水質汚濁を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。
8	8. 試験の解説	ライフサイクルと母子保健を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名 【英】	解剖生理学 2 Anatomy and Physiology 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	2	学期	後期	曜日	金曜日	時限	3.4
担当教員	永瀬 佳孝	実務者経験	1989年4月～1991年3月小曽根病院歯科、1991年4月～1993年6月中川歯科医院にて 歯科医師としての実務経験あり。				
学習内容	内臓の解剖学・生理学について学習する。						
到達目標	①授業内容の各項目について知識が記憶し、図と文章を用いて説明することができる。 ②授業の各項目について、臨床との関連を説明することができる。						
準備学習 時間外学習	授業の最後に次回の講義範囲を提示するので、1年次の教科書を読んでくること。 授業の最後に記憶すべき事項を提示するので、覚えること。						
使用教材	1・2年生で使用する解剖学、生理学、一般臨床の教科書						
留意点 備考	すべて板書するので、それをノートに手書きで書き写し、授業終了時に授業、ノートの提出により出席とするので注意すること。						
成績評価	筆記試験（60）%、授業ノート（20）%、レポート（課題）（20）%、合計100点。60点以上で合格。						

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	内臓の解剖と自律機能 1	細胞内液、血球の分化と疾患、免疫、アレルギー 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。
2	内臓の解剖と自律機能 2	循環器系の概略と疾患、心臓の解剖と生理 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。
3	内臓の解剖と自律機能 3	血管系と血圧、循環の調節 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。
4	内臓の解剖と自律機能 4	呼吸器系の解剖と疾患、呼吸の生理 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。
5	内臓の解剖と自律機能 5	呼吸の調節 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。
6	内臓の解剖と自律機能 6	消化器系の解剖と機能 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。
7	内臓の解剖と自律機能 7	消化・吸収と肝臓 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。
8	内臓の解剖と自律機能 8	腎泌尿器系の解剖と疾患、ナトリウムイオンと水の吸収 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。
9	内臓の解剖と自律機能 9	電解質の調節、排尿と蓄尿 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。
10	内臓の解剖と自律機能 10	代謝と体液のpH、体温の調節の仕組み 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。
11	内臓の解剖と自律機能 11	分泌調節によるホルモンの分類、下垂体のホルモン 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。
12	内臓の解剖と自律機能 12	神経内分泌、カルシウム代謝、糖質代謝、電解質代謝 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。
13	内臓の解剖と自律機能 13	体液分布とホメオスタシス 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。
14	内臓の解剖と自律機能 14	上肢の筋と呼吸 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。
15	内臓の解剖と自律機能 15	下肢の筋と姿勢・歩行 授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。

科目名 【英】	一般臨床医学 General Remarks of Clinical Medicine			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	2	学期	後期	曜日	火曜日	時限	1.2
担当教員	小坂さおり	実務者経験	1997年～2013年まで病院にて、2020年～現在までクリニックにて医師として勤務。				
学習内容	柔道整復師に必要な一般臨床医学知識を体系的に学ぶ						
到達目標	各内科疾患の特徴を理解し、その症候から鑑別診断ができる。柔道整復師国家試験に対応できるのみでなく、実臨床において活用できるレベルに到達する。						
準備学習 時間外学習	予習として、一般臨床医学の教科書を読み、新出の語句の読みや意味を調べる。						
使用教材	教科書『一般臨床医学』、配布プリント						
留意点 備考	副教材として、解剖学、生理学の教科書は持参の必要はないが、自宅にて予習・復習に用いること						
成績評価	出席、授業態度、学期末試験の結果を総合的に判断する。						

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	診察概論、医療面接、視診 (意義と方法～栄養状態)	診察の意義、進め方について説明できる。医療面接の意義と方法について説明できる。
2	視診(精神状態、異常運動、歩行)	視診(精神状態、異常運動、歩行)の方法について説明できる。
3	視診(皮膚、頭部・顔面)	視診(皮膚、頭部、顔面)の方法について説明できる。
4	視診(頸部、胸部、腹部、背部・腰部、四肢)	視診(頸部、胸部、腹部、背部、腰部)の方法について説明できる。
5	視診(四肢)、打診、	視診(四肢)の方法について説明できる。打診の意義と方法について説明できる
6	聴診	聴診の意義と方法について説明できる
7	触診	触診の意義と方法について説明できる。
8	生命徴候	体温、血圧、脈拍、呼吸の測定方法と意義について説明できる
9	感覚検査	感覚検査の意義と方法について説明できる。
10	反射検査(実習)	反射検査の意義と方法について説明できる
11	代表的な臨床症状(発熱、出血傾向、リンパ節腫脹)	発熱、出血傾向、リンパ節腫脹についてこれらをきたす疾患について説明できる
12	代表的な臨床症状(意識障害、チアノーゼ、関節痛)	意識障害、チアノーゼ、関節痛についてこれらをきたす疾患について説明できる
13	代表的な臨床症状(浮腫、肥満、やせ)	浮腫、肥満、やせについてこれらをきたす疾患について説明できる
14	検査法	心電図、脳波検査、筋電図などの検査法について説明できる。
15	試験解説	後期試験の解説を行う。一般臨床医学全般について説明できる。

科目名 【英】	病理学概論 Introduction to Pathology			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	2	学期	後期	曜日	月曜日	時限	3.4

担当教員	森 誠司	実務者経験	
------	------	-------	--

学習内容	病理学は「病の理（ことわり）」であり、どのようにして病気がおこるかを、形態学的手法を用いて研究する学問である。形態学のみならず、生理学、生化学などの総合的な知識を用いて病気のおこるメカニズムについて講義する。
到達目標	病気の成り立ちを十分に理解し、その知識を将来臨床の場で生かせるようにする。

準備学習 時間外学習	各々の講義項目は関連しており講義毎に復習をし、その復習による知識をふまえて次回の講義の予習を行う。
使用教材	医歯薬出版 病理学概論第3版
留意点 備考	なし

成績評価	期末試験で評価
------	---------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	細胞傷害①	細胞障害と適応—肥大、過形成、化生、萎縮 細胞の適応について理解でき、適応の種類を説明できる。
2	細胞傷害②	壊死（凝固壊死、融解壊死、壊疽） 細胞死について説明できる。
3	循環障害①	組織・リンパ液の循環障害（浮腫）、充血とうっ血、出血 浮腫の原因を病理学的に説明できる。充血とうっ血の相違を理解できる。出血の種類を説明できる。
4	循環障害②	血栓症、塞栓症 血栓形成因子を理解できる。血栓の種類、転帰を説明できる。塞栓の源と閉塞する血管を説明できる。
5	循環障害③	梗塞、循環ショック、高血圧症 塞栓の種類を説明できる。循環ショックの種類を説明できる。高血圧症の分類を説明でき、高血圧症の合併症も説明できる。
6	炎症①	急性炎症、慢性炎症 急性炎症と慢性炎症の病理学的（形態学的）特徴を説明できる。
7	炎症②	炎症の転帰、炎症の種類。炎症の転帰と炎症の種類を説明できる。
8	免疫異常①	免疫の仕組み；自然免疫と獲得免疫（液性免疫、細胞性免疫）、 免疫の仕組みが理解できる。
9	免疫異常②	免疫系細胞、抗体、メディエータ 免疫に関わる細胞、分子、メディエータを説明できる。
10	腫瘍①	腫瘍とは、腫瘍の分類、良性腫瘍と悪性腫瘍 腫瘍の定義と分類が説明できる。良性腫瘍と悪性腫瘍の相違が説明できる。
11	腫瘍②	良性腫瘍と悪性腫瘍の特徴（分化度と退形成・増殖速・局所浸潤・転移度） 良性腫瘍と悪性腫瘍の特徴を説明できる。
12	先天異常①	先天性疾患とは、分類、原因 原因ごとに先天性疾患について説明できる
13	先天異常②	遺伝性疾患；メンデルの法則に従う疾患 メンデルの法則に従う遺伝性疾患の遺伝形式を理解し説明できる。
14	感染症	感染症とは、感染経路、病原性微生物 原因微生物の大別と引き起こされる疾患について説明できる
15	試験解説・ まとめ	試験解説

科目名 【英】	衛生学・公衆衛生学 Hygiene and Public Health			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	2	学期	後期	曜日	金曜日	時限	3.4

担当教員	西浦 弘志	実務者経験	平成8年～平成25年：熊本大学・大学院医学研究科・分子病理学講座；助教17年間、平成25年～平成26年：大阪歯科大学・薬理学講座；講師0.5年間、平成26年～現在に至る；兵庫医科大学・病理学講座・病理診断部門；助教4年間
------	-------	-------	--

学習内容	日本さらには世界の医療の現状を把握し、患者の各現状に合わせた医療計画を立案する能力を持つ柔道整復師になる基礎を学習する。
到達目標	国家試験の正答率60%を採ることができるようになる。

準備学習 時間外学習	国家試験対策プリントの整理
使用教材	衛生学・公衆衛生学 改定版6版（南江堂）、国家試験対策プリントおよびノート
留意点 備考	授業中静粛にする

成績評価	筆記試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	7. 生活環境・食品衛生活動	水の衛生と水質汚濁を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率60%を採ることができるようになる。
2	8. 母子保健	ライフサイクルと母子保健を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率60%を採ることができるようになる。
3	9. 学校保健	健康生活能力の発達を図るために学校で行われる諸活動を学校保健と理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率60%を採ることができるようになる。
4	10. 産業保健	働く人の病気を予防し、健康を保持増進するための学問と活動が産業保健と理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率60%を採ることができるようになる。
5	11. 成人・高齢者保健	老年人口の増加と生活習慣予防対策を理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率60%を採ることができるようになる。
6	12. 精神保健	精神障害の予防が精神保健と理解する。国家試験対策問題にて理解度をチェックする。正答率60%を採ることができるようになる。
7	13. 地域保険と国際保健	地域および国際を対象としたものが地域保険および国際保健と理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率60%を採ることができるようになる。
8	14. 衛生行政と保健医療の制度	公衆衛生の定義の中でコミュニティの組織学的な努力を通じての部分具体化したものと理解する。国家試験対策問題にて理解度をチェックする。正答率60%を採ることができるようになる。
9	15. 医療の倫理と安全の確保	道徳的規範を特定の医療集団に適応させたものが倫理と理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率60%を採ることができるようになる。
10	16. 疫学	人間集団における疾病の分布とその発生原因を研究する科学を疫学と理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率60%を採ることができるようになる。
11	7. 生活環境・食品衛生活動、 8. 母子保健	水の衛生と水質汚濁を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。ライフサイクルと母子保健を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率60%を採ることができるようになる。
12	9. 学校保健、10. 産業保健、11. 成人・高齢者保健	健康生活能力の発達を図るために学校で行われる諸活動を学校保健と理解する。働く人の病気を予防し、健康を保持増進するための学問と活動が産業保健と理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率60%を採ることができるようになる。
13	12. 精神保健、13. 地域保険と国際保健	精神障害の予防が精神保健と理解する。国家試験対策問題にて理解度をチェックする。地域および国際を対象としたものが地域保険および国際保健と理解する。正答率60%を採ることができるようになる。
14	14. 衛生行政と保健医療の制度、15. 医療の倫理と安全の確保	公衆衛生の定義の中でコミュニティの組織学的な努力を通じての部分具体化したものと理解する。道徳的規範を特定の医療集団に適応させたものが倫理と理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率60%を採ることができるようになる。
15	試験の振り返り	試験対策問題の解答と解説。正答率60%を採ることができるようになる。

科目名 【英】	基礎鑑別学 Difference Diagnosis Basic			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	2	学期	後期	曜日	木曜日	時限	3.4

担当教員	高橋秀郎	実務者経験	医療法人 淳良会関目病院にて脱臼、骨折の修復固定 手術助手 手術後のリハビリテーション担当 1993年9月～2013年4月
------	------	-------	---

学習内容	柔道整復師がチーム医療の一員として活躍するために必要な事は、他の職種とスムーズな患者情報の共有と柔道整復師の対応できる疾患の速やかな病態把握である。基礎鑑別学ではこれらの課題を遂行するための基礎知識を学ぶ。特に重篤な後遺症を招くような注意すべき疾患の兆候に重点を置いて解説する
------	--

到達目標	患者の兆候から今後起こりえる病態を考察できるようになる 医療機関との連携が必要であると判断した際に、スムーズな患者情報の提供ができるようになる
------	--

準備学習 時間外学習	人体の構造である解剖学 柔道整復術の関連の深い整形外科の知識を整理しておくこと
---------------	---

使用教材	全国柔道整復学校協会監修 「医療の中の柔道整復」 有沢 修 著
------	---------------------------------

留意点 備考	教科書を熟読すること。 板書の書き写しは強制しない。書き写しに気を取られ解説の理解が疎かにならないようにする事
-----------	--

成績評価	定期試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	鑑別学1	損傷に類似した症状を示す疾患 身体各部の兆候から今後の症状の推移を判断することが出来る
2	鑑別学2	損傷に類似した症状を示す疾患 身体各部の兆候から今後の症状の推移を判断することが出来る
3	鑑別学3	損傷に類似した症状を示す疾患 身体各部の兆候から今後の症状の推移を判断することが出来る
4	鑑別学4	血流障害を伴う損傷 血流障害の兆候を理解し、緊急時の対応が出来るようになる
5	鑑別学5	末梢神経障害を伴う損傷 神経障害の発生機序を理解し、神経障害特有の病態から損傷されている神経の判断が出来る
6	鑑別学6	脱臼骨折 脱臼骨折の状態とその予後について理解する。後遺症の残らない対応の判断が出来る
7	鑑別学7	外出血を伴う損傷 柔道整復術の禁忌症の可能性を念頭に置いた対応が出来るようになる
8	鑑別学8	病的骨折及び脱臼 骨折、脱臼の対応とともに契機となる先行病変について理解し説明できるようになる
9	鑑別学9	意識障害を伴う損傷 意識障害を呈する患者の対応と意識障害を引き起こす病態について説明できるようになる
10	鑑別学10	意識障害を伴う損傷 意識障害を呈する患者の対応と意識障害を引き起こす病態について説明できるようになる
11	鑑別学11	脊髄症状のある損傷 脊髄損傷の症状を重篤化しない対応方法と脊髄損傷を引き起こす外傷について説明できる
12	鑑別学12	呼吸運動障害を伴う損傷 呼吸運動障害を呈する患者の対応と医療機関との連携をスムーズに行うことが出来る
13	鑑別学13	内臓損傷の合併が疑われる損傷 内臓損傷の兆候と対応方法を理解しその概要を説明できるようになる
14	鑑別学14	高エネルギー外傷 身体に高エネルギーの外力が加わった際の反応と組織損傷について説明できるようになる
15	鑑別学15	全体のまとめと総復習

科目名 【英】	柔道 3 Judo 3			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単位	1
学年	2	学期	後期	曜日	木曜日	時限	3.4

担当教員	中村 義毅	実務者経験	1997年5月整骨院を開業し現在に至る。 同整骨院にて柔道整復術を行う。
------	-------	-------	---

学習内容	柔道の技術と礼儀作法を学び、形（手技・腰技）や礼法を習得する。
到達目標	形や礼法を習得し、行うことができるようになる。

準備学習 時間外学習	1年次に履修した礼法、受け身などを授業前に予習しておく
使用教材	柔道衣
留意点 備考	準備運動としてストレッチや受身をとって外傷を予防する。

成績評価	15回目後に進級実技試験を実施し、柔道実技試験にて評価する。
------	--------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	受身	横・前回り受身を行うことができる。
2	約束乱取 1	大外刈や体落の技の基本を学び行うことができる。
3	約束乱取 2	打込、投込の説明を行う。 背負投、大外刈、体落の打込や投込を行うことができる。
4	約束乱取 3	打込、投込の説明を行う。 背負投、大外刈、体落の打込や投込を行うことができる。
5	形（手技） 1	講道館の形について学ぶ 浮落の形（右投）を学び行うことができる。
6	形（手技） 2	講道館の形について学ぶ 浮落の形（左投）を学び行うことができる。
7	形（手技） 3	浮落の形を左投、右投を行うことができる。
8	形（手技） 4	講道館の形について学ぶ 右背負投の注意点を学び、指示通りに行うことができる。
9	形（手技） 5	講道館の形について学ぶ 右背負投の注意点を学び、指示通りに行っているかお互いで確認しあう。
10	形（手技） 6	講道館の形について学ぶ 左背負投の注意点を学び、指示通りに行うことができる。
11	形（手技） 7	講道館の形について学ぶ 左背負投の注意点を学び、指示通りに行っているかお互いで確認しあう。
12	形（手技） 8	講道館の形について学ぶ 肩車の注意点を学び、指示通りに行うことができる。
13	形（腰技）	講道館の形について学ぶ 浮腰の注意点を学び、指示通りに行うことができる。
14	復習	礼法、形、約束乱取の練習 進級実技試験の進捗を理解して指示通りに行うことができる。
15	復習	礼法、形、約束乱取の練習 進級実技試験の進捗を理解して指示通りに行うことができる。

科目名 【英】	柔整コンディショニング実習2 Judo Therapy Conditioning Skill Practice 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	3.4
担当教員	山田 靖典	実務者経験	2001年～2008年まで整形外科勤務				
学習内容	ストレッチングを通じて患者とのコミュニケーション・接し方について学ぶ また筋肉について理解を深める						
到達目標	特定非営利活動法人日本ストレッチング協会ストレッチングパートナー資格取得						
準備学習 時間外学習	資格取得にむけた自主練習						
使用教材	特定非営利活動法人日本ストレッチング協会ストレッチングパートナーテキスト						
留意点 備 考	出席率100%により受講資格が発生する						
成績評価	座学20問（4択問題）60%以上の正答率。実技3題の評価						

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		ストレッチングについて	ガイダンス。P2～10 ストレッチングについて学ぶ。
2		ストレッチング 下肢	大腿部前面のストレッチングを理解し、実施できるようになる。
3		ストレッチング 下肢	大腿部後面のストレッチングを理解し、実施できるようになる。
4		ストレッチング 下肢・体幹	大腿部内側面・股関節前面のストレッチングを理解し、実施できるようになる。
5		ストレッチング 体幹	股関節後面・胸部のストレッチングを理解し、実施できるようになる。
6		ストレッチング 体幹・バリエーション	背部・上腕前面のストレッチングを理解し、実施できるようになる。
7		検定に向けて	総復習。試験対策
8		筋実習1	体幹の筋について理解し、説明できるようになる。
9		筋実習2	上肢帯について理解し、説明できるようになる。
10		筋実習3	上腕の筋について理解し、説明できるようになる。
11		筋実習4	前腕・手部の筋について理解し、説明できるようになる。
12		筋実習5	大腿屈筋について理解し、説明できるようになる。
13		筋実習6	大腿伸筋について理解し、説明できるようになる。
14		筋実習7	下腿の筋について理解し、説明できるようになる。
15		筋実習8	総まとめ

科目名 【英】	外傷予防理論実習 1 Injury Prevention Conditioning Practices 1			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単位	1
学年	2	学期	後期	曜日	木曜日	時限	1.2

担当教員	田中 精一	実務者経験	2013年3月より通所介護施設開設。高齢者の転倒による外傷予防を含めた日常生活機能の維持・向上への機能訓練指導をおこなう。
------	-------	-------	---

学習内容	高齢化社会において、介護保険制度は高齢者を支える上で大きな柱となっています。特に転倒を含めた外傷の予防、日常生活能力の維持・向上にむけた介護予防等は機能訓練指導員の大きな責務です。柔道整復師はその一員として位置づけられています。今後益々その担い手として介護分野への参画が期待されています。それに伴い、養成校での介護保険制度に対する知識と機能訓練指導員としての技術を習得し、介護業界へ貢献すると共に日本社会における柔道整復師の地位向上へと繋げる事。また、医療分野への就職あるいは独自の開業だけに留まらず、介護分野への参入で将来の生計の幅の広がりを感じていただく事を目的とします。
到達目標	機能訓練指導員として介護保険制度の知識と技術を習得。

準備学習 時間外学習	授業計画を確認し、配布資料・講義内容をもとに予習・復習を行ってください。聞き逃しや疑問点がありましたら質問に来てください。
使用教材	教科書『柔道整復師と機能訓練指導』（南江堂）、配布プリント
留意点 備考	配布したプリントは整理し、授業の度に持参して受講するのが望ましい。

成績評価	期末筆記試験60% + 実技テスト40%で評価。
------	--------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	(座) 柔整師と介護保険 (演) コグニサイズ I	(座学) 介護保険サービスにおける柔整師の必要性の理解。 (演習) 認知症予防体操の体験と理解。
2	(座) 発達と老化の理解 I (演) 嘔吐物の対処方法	(座学) サルコペニアとフレイルの違い。 (演習) 嘔吐物対処の理解。
3	(座) 発達と老化の理解 II (演) 心肺蘇生	(座学) 健康寿命の理解 (演習) 心肺蘇生法への関心
4	(座) 介護保険制度 (演) 二人組 認定調査	(座学) 介護保険制度の理解 (演習) 認定調査内容の理解と調査体験。
5	(座) 介護区分とサービス (演) 筋肉作用	(座学) 各種介護サービスの理解 (演習) 高齢者の機能訓練に対する考え方と指導方法習得
6	(座) 介護の過程 I (演) 転倒予防と歩行	(座学) 介護支援のための情報分析の仕方の理解。 (演習) 高齢者への歩行指導方法習得
7	(演) 介護の過程 II 居宅介護計画(原案)作成	(演習) 介護支援のための居宅介護計画の作成能力習得。
8	(演) 介護の過程 III 介護計画のグループ作成	(演習) 意見交換を交えたグループ(班)としての居宅介護計画の作成能力習得とその体験。
9	(演) 介護の過程 IV 担当者会議とグループ検討	(演習) 担当役設定の上での疑似体験による介護支援者とその家族に対する支援計画の説明力と対応力の習得。
10	(座) 機能訓練指導 (演) 機能訓練計画作成	(座学) 機能訓練指導方法の理解。 (演習) 個別機能訓練計画作成力
11	(座) 認知症の理解 (演) 身体能力測定と評価	(座学) 認知症患者の理解 (演習) 機能訓練身体能力測定方法と評価方法の習得
12	(演) ロコモティブシンドロームとテストと評価	(演習) ロコモテスト方法と評価方法の習得
13	(座) 高齢者介護と ICF (演) 機能訓練試験対象	(演習) 機能訓練の運動と要点の習得。(実技試験合格ラインまで)
14	前半 50分 筆記試験 後半 (座学) 高齢者の障害	前半 筆記試験 後半 (座学) 高齢者の関節障害の理解
15	前半 実技試験 後半 (座学) まとめ	前半 実技試験 後半 (座学) 介護保険制度における柔整師の役割の理解

科目名 【英】	柔道整復実技3 Judo Therapy Practical Training 3			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単位	1
学年	2	学期	後期	曜日	水曜日	時限	1.2

担当教員	竹田 英樹	実務者経験	1997年5月～2003年3月 整形外科医院にて勤務。 2003年9月～2008年2月 The Sydney Shiatsu Clinicにて勤務。 2008年3月～現在に至る 東洋医療専門学校附属整骨院にて勤務。
------	-------	-------	---

学習内容	幼小児に発生する肘疾患、代表的な骨折の整復法を学ぶ。 骨折を整復する前後の診察法を学ぶ。
到達目標	肘内障、鎖骨骨折、上腕骨外科頸外転型骨折、上腕骨顆上伸展型骨折、コーレス骨折の整復の操作を実施できる。 臨床の場において実際に活用できるレベル、かつ柔道整復師国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	口頭試問マニュアルや柔道整復学の予習及び復習が必要。
使用教材	実技マニュアル
留意点 備考	副教材として口頭試問マニュアルや柔道整復学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	15回目後に進級実技試験を実施し、整復実技1試験にて評価する。
------	---------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	肘内障 整復法	肘内障の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
2	鎖骨骨折 整復法	鎖骨骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
3	上腕骨外科頸外転型骨折 整復法	上腕骨外科頸外転型骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
4	上腕骨外科頸外転型骨折 整復法	上腕骨外科頸外転型骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
5	上腕骨顆上伸展型骨折 整復法	上腕骨顆上伸展型骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
6	コーレス骨折 牽引直圧法 整復法	コーレス骨折牽引直圧法の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
7	コーレス骨折 屈曲 整復法	コーレス骨折牽引直圧法の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
8	肘内障 整復法	肘内障の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
9	鎖骨骨折 整復法	鎖骨骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
10	上腕骨外科頸外転型骨折 整復法	上腕骨外科頸外転型骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
11	上腕骨外科頸外転型骨折 整復法	上腕骨外科頸外転型骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
12	上腕骨顆上伸展型骨折 整復法	上腕骨顆上伸展型骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
13	コーレス骨折 牽引直圧法/屈曲整復法	コーレス骨折牽引直圧法の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
14	総復習1	後期の授業で学んだ全て整復法を左右のどちらとも患肢として制限時間を設け時間内に実施できる。
15	総復習2	要点的整理。説明しながら整復法ができるようになる。

科目名 【英】	柔道整復実技 4 Judo Therapy Practical Training 4			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単位	1
学年	2	学期	後期	曜日	水曜日	時限	3.4

担当教員	正木 大吾	実務者経験	平成6年から鍼灸整骨院開業し約1,000症例の骨折、脱臼の施術を行いながら平成13年から柔道整復師学科非常勤講師を現在まで行う。
------	-------	-------	--

学習内容	上腕骨遠位端部骨折から手指部骨折・脱臼を学ぶ。
到達目標	上腕骨遠位端部骨折から手指部骨折の国家試験問題が解けるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学（骨・筋）参照
使用教材	柔道整復理論 改訂第6版
留意点 備考	

成績評価	100% 定期試験評価
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	肘関節後方脱臼・肘内障	肘関節後方脱臼・肘内障の発生機序、脱臼骨頭の位置、症状、特徴が説明できる。
2	肘関節部の軟部組織損傷	側副靭帯損傷・PLRIについて説明できる。
3	肘関節部の軟部組織損傷	野球肘・上腕骨外側上顆炎・パンナー病・変形性肘関節症の分類、治療法、予防などが説明できる。
4	上腕骨骨幹部骨折 機能的装具固定法	上腕骨骨幹部骨折の発生機序、骨片転位、症状、合併症の説明ができる。
5	舟状骨骨折	舟状骨骨折の発生機序、骨片転位、症状、合併症の説明ができる。
6	舟状骨骨折 固定法	舟状骨骨折の固定法ができる。
7	上腕骨近位部骨折	上腕骨近位部骨折の発生機序、骨片転位、症状、合併症の説明ができる。
8	上腕骨骨幹部骨折 機能的装具固定法	サルミエントの機能的装具の作成ができる。
9	上腕骨骨幹部骨折 機能的装具固定法	サルミエントの機能的装具の作成ができる。
10	復習	脱臼の整復法（肩鎖関節脱臼、肩関節脱臼、肘関節脱臼）
11	復習	脱臼の整復法（肩鎖関節脱臼、肩関節脱臼、肘関節脱臼）
12	復習	進級実技試験にむけた。三角巾、肋骨固定、肩鎖関節脱臼テーピング固定
13	復習	進級実技試験にむけた。三角巾、肋骨固定、肩鎖関節脱臼テーピング固定
14	復習	後期定期試験に向けた総復習
15	実技	試験解説、進級実技再試験にむけた注意事項と練習

科目名 【英】	柔道整復実技5 Judo Therapy Practical Training 5			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単位	1
学年	2	学期	後期	曜日	火曜日	時限	3.4

担当教員	竹田 英樹	実務者経験	1997年5月～2003年3月 整形外科医院にて勤務。 2003年9月～2008年2月 The Sydney Shiatsu Clinicにて勤務。 2008年3月～現在に至る 東洋医療専門学校附属整骨院にて勤務。
------	-------	-------	---

学習内容	手・指の損傷や下腿部の損傷の発生機序・症状・所見・検査法・治療法を学ぶ。 各傷病の部位と病態を関連して学ぶ。
到達目標	手・指の損傷や下腿部の損傷の発生機序を理解し傷病を鑑別することができる。 柔道整復師国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	口頭試問マニュアルや柔道整復学の予習及び復習が必要。
使用教材	教科書『柔道整復学 理論編』改訂第6版（東洋療法学校協会編） 配布プリント
留意点 備考	副教材として口頭試問マニュアルや柔道整復学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	学期末試験を実施し評価する。
------	----------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	手・指部の損傷 1	手・指の解剖と機能をお互いの手・指部を触診して学ぶ MP関節、PIP関節、DIP関節の骨形状や靭帯の機能解剖の特徴を説明できる。
2	手・指部の損傷 2	中手骨部の骨折の分類（中手骨頭部・中手骨頸部・中手骨幹部の骨折）を理解する 発生機序、症状、整復法、固定法、後遺症を説明できる
3	手・指部の損傷 3	ペネット骨折やローランド骨折、CM関節脱臼や指骨骨折を理解する 発生機序、症状、整復法、固定法、注意事項を説明できる
4	手・指部の損傷 4	中節骨骨折（頭部・骨幹部・掌側板附着部裂骨折）、末節骨骨折を理解する 概説、症状、整復法、固定法、後療法、マレットフィンガーの分類を説明できる
5	手・指部の損傷 5	MP関節脱臼、PIP関節脱臼、DIP関節脱臼を理解する 分類、発生機序、症状、固定法を説明できる
6	手・指部の損傷 6	手・指の軟部組織損傷、第1MP関節側副靭帯損傷、ロッキングフィンガーを理解する 概説、発生機序、症状について説明できる
7	手・指部の損傷 7	ばね指・デュブイトラン拘縮、ヘバーデン結節・ポタン穴・スワンネック変形、注意すべき疾患（RA、ひょうそ、グロムス腫瘍）を理解する 概説、発生機序、症状について説明できる
8	下腿部の損傷 1	解剖と機能（下腿部の神経・筋、デルマトーム）をお互いの下腿部を触診して学ぶ
9	下腿部の損傷 2	下腿骨骨幹部骨折（脛骨単独・脛腓両骨骨折）を理解する 発生機序、転位、症状、整復法、固定法、後遺症を説明できる
10	下腿部の損傷 3	下腿骨骨幹部骨折（脛骨単独・脛腓両骨骨折）を理解する 発生機序、転位、症状、整復法、固定法、後遺症を説明できる
11	下腿部の損傷 4	腓骨骨幹部単独骨折、下腿骨果上骨折を理解する 概説、発生機序、症状・整復、後遺症を説明できる
12	下腿部の損傷 5	下腿骨疲労骨折、アキレス腱炎・アキレス腱周囲炎、アキレス腱断裂を理解する 概説、分類、症状、検査法を理解する
13	下腿部の損傷 6	下腿三頭筋の肉離れ、シンスプリント、コンパートメント症候群を理解する 概説、発生機序、症状を理解する
14	下腿部の損傷 7	下腿感染症・下腿腫瘍・下肢血行障害を理解する 概要、発生原因、好発部位、症状、治療法を説明できる
15	試験解説	定期試験の解答・解説を行う。

科目名 【英】	柔道整復実技6 Judo Therapy Practical Training 6			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単位	1
学年	2	学期	後期	曜日	火曜日	時限	3.4

担当教員	上田 益嗣	実務者経験	1995年7月～2019年3月 接骨院に所属し柔整施術および鍼灸院にて鍼灸施術や鍼灸柔整の往療を行う
------	-------	-------	--

学習内容	下肢の骨折や脱臼についての発生機転・症状を覚えやすい方法で学ぶ。基本的な柔道整復理論を理解する事によって、1年次に履修した基礎医学（解剖学・生理学）を通して観察・判断し、適切な処置が出来るような思考法を培い、基本的な処置原則を身につけることを学ぶ。また、3年次に必要な基礎的な知識を学習する。
到達目標	柔道整復師としての観点で臨床推論、鑑別診断ができる。臨床の場において実際に活用できるレベル、かつ、柔道整復師国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	解剖学・運動学の予習が必要。一般臨床医学や整形外科との関連を復習する。
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、教科書『柔道整復学・実技編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備考	授業に参加されない方、授業の妨害をされる方は欠課とすることがあります。

成績評価	原則、単元毎に小テストを実施。期末試験97%、小テスト2%、出席率1%で評価する。
------	---

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	下腿骨遠位端部骨折 1	小テスト・腓骨骨幹部単独骨折、下腿骨果上骨折（発生機序、転位、症状、整復法、固定法、後療法、後遺症）を説明することができる。
2	下腿骨遠位端部骨折 2	前回の復習・小テスト・下腿骨疲労骨折（分類、発生機序、症状、治療法）・ラウゲ＝ハンセン分類（PAB損傷・SAD損傷）を説明することができる。
3	足根骨部の骨折 1	前回の復習・小テスト・足関節のバイオメカニクス、距骨の解剖・距骨骨折の分類を説明することができる。
4	足根骨部の骨折 2	前回の復習・小テスト・足関節のバイオメカニクス、距骨の解剖・距骨骨折の分類を説明することができる。
5	足根骨部の骨折 3	前回の復習・小テスト・発生機転、症状、治療法、踵骨の解剖、発生機転、分類、症状、ペーラー角、を説明することができる。
6	足根骨部の骨折 4	前回の復習・小テスト・舟状骨の解剖、発生機転、分類、症状、治療法、鑑別を説明することができる。
7	足関節部の脱臼 1	前回の復習・小テスト・足の解剖、運動学ショパール関節脱臼（分類、特徴）を説明することができる。
8	足関節部の脱臼 2	前回の復習・小テスト・リスフラン関節脱臼（分類、特徴）・中足指関節脱臼（発生機序、症状、治療法）を説明することができる。
9	足関節部の軟部組織損傷	前回の復習・小テスト・足部の靭帯解剖と診察法、足の靭帯損傷発生機序、症状、治療法・足アーチに足アーチについて説明することができる。足部の有痛性の各疾患を説明することができる。
10	中足骨の骨折	前回の復習・小テスト・その他の足根骨解剖、分類、治療法、足の解剖、足アーチについて、発生機序による分類、症状を説明することができる。
11	中足骨・趾骨骨折の骨折	前回の復習・小テスト・中足骨骨折治療法、予後、足趾、趾骨骨折の発生機序、分類、症状、治療法を説明することができる。
12	足根骨の脱臼と軟部組織損傷 1	前回の復習・小テスト・足部の靭帯解剖と診察法、足の靭帯損傷発生機序、症状、治療法・足アーチについて説明できる。
13	足根骨の脱臼と軟部組織損傷 2	前回の復習・小テスト・Sever病、アキレス腱滑液包炎、有痛性三角骨、有痛性外脛骨、踵骨棘、足底腱膜炎、第1Kohler病について説明できる。
14	足根骨の脱臼と軟部組織損傷 3	前回の復習・小テスト・外反母趾、種子骨障害、フライバーグ病、モートン病について説明できる。
15	試験解説	前期試験解説

科目名 【英】	臨床実習3 Clinical Training 3			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	45	単位	1
学年	2	学期	後期	曜日		時限	

担当教員	竹田 英樹	実務者経験	1997年5月～2003年3月 整形外科医院にて勤務。 2003年9月～2008年2月 The Sydney Shiatsu Clinicにて勤務。 2008年3月～現在に至る 東洋医療専門学校附属整骨院にて勤務。
------	-------	-------	---

学習内容	臨床体験、臨床見学を通して、臨床に携わる者としての態度・習慣、ならびに実践的能力を修得する
到達目標	1) 臨床実習において施術所における施術の一連の流れを理解する。 2) 実習施設の業務形態を理解し、スタッフとしての行動ができる。 3) 患者に対し、適切な態度で接する。

準備学習 時間外学習	1. 施術所で患者に不快感を与えない身嗜みを整える。 2. 施術者に相応しい挨拶（自己紹介）ができる。 3. 施術所で患者に不快感を与えない態度、適切な言葉づかいができること。 4. 医学的な清潔の意味が説明できること。 5. 施術所の清潔保持の重要性について説明できること。 6. 守秘義務を説明できること。
使用教材	配布プリント
留意点 備考	

成績評価	出席率 及び 臨床実習評価表にて評価する。
------	-----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】					
1	基礎実習	1) 柔道整復師として相応しい服装、身嗜み、態度を身に付ける 2) 医療面接の実施 3) ROM、MMTなどを計測、評価の実施 4) 神経学的検査、脈管検査、評価の実施 5) 治療器機の効果、禁忌の理解 6) ベッドメイキング、衛生面への配慮 【見学実習】 1) 環境準備 2) 受付業務 3) 患者さんの誘導を実施			
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9	患者さんに対する対応	1) 患者に対して適切な対応ができる。 2) 患者の抱える問題点に共感できる。 3) 自己の問題点を抽出し、解決できる。			
10					
11					
13	施術録作成・症例検討	a			
14					
15					
17	保険請求	1) 手続きの意義 2) 記載方法の実施			
18					
19					
21	実習期間	時間数	回数	総時間	期間
22		8時間(全日)	6回 (6回目は5時間)	45時間	8月中の1週間
23					

科目名 【英】	課題研究 Project Studies			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単位	2
学年	2	学期	後期	曜日	水曜日	時限	3.4

担当教員	竹田 英樹	実務者経験	1997年5月～2003年3月 整形外科医院にて勤務。 2003年9月～2008年2月 The Sydney Shiatsu Clinicにて勤務。 2008年3月～2019年3月 東洋医療専門学校附属整骨院にて勤務。
------	-------	-------	---

学習内容	設定したテーマについて研究・考察を行う。
到達目標	自ら考え、行動し、問題解決できるようになる。 発表を行うことでプレゼンテーション力を身につけることができる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	
留意点 備考	

成績評価	出席率により評価する。
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	オリエンテーション	オリエンテーションを行い、課題研究の目的、到達目標を全員が理解できる。
2	目的・テーマ決定	全員で考え、目的・研究テーマを決定できる。
3	目的・テーマ決定	全員で考え、目的・研究テーマを決定できる。
4	目的・テーマ決定	全員で考え、目的・研究テーマを決定できる。
5	検証・考察	全員で検証を行い、考察することができる。
6	検証・考察	全員で検証を行い、考察することができる。
7	検証・考察	全員で検証を行い、考察することができる。
8	検証・考察	全員で検証を行い、考察することができる。
9	検証・考察	全員で検証を行い、考察することができる。
10	抄録・発表スライド作成	抄録・発表スライドを完成できる。
11	抄録・発表スライド作成	抄録・発表スライドを完成できる。
12	抄録・発表スライド作成	抄録・発表スライドを完成できる。
13	発表	目的・研究テーマ・検証・考察を発表できる。
14	ポスター作成	掲示用のポスターを完成できる。
15	ポスター作成	掲示用のポスターを完成できる。
16	ポスター作成	掲示用のポスターを完成できる。

科目名 【英】	柔道整復応用講座 1 Course of Judo Therapy Advanced 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	3.4
担当教員	角田 晃啓	実務者経験	2009年より大学勤務 運動学を含む各種講義に従事 2015年より病院兼務 病院にて理学療法を実施				
学習内容	基礎運動学では、人体の構造と機能（骨、筋、神経）をふまえ、人体が空間のなかでどのように動くかを学習する。特に重力の影響を受けた状態での運動について理解することを目的とする。						
到達目標	空間の中での身体の運動を理解できる。 身体の運動に関与している骨、関節、靭帯、筋について説明できる。						
準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の予習が必要。運動学との関連を復習する。						
使用教材	教科書『運動学』（医歯薬出版）、配布プリント						
留意点 備 考							
成績評価	期末試験 100%						

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	運動学 1	運動器・神経の構造と機能 運動器・神経の構造ならびに機能について説明できる。
2	運動学 2	四肢と体幹の運動【体幹・脊柱・顔面・頭部 1】 体幹・脊柱・顔面・頭部の構造・機能について理解できる
3	運動学 3	四肢と体幹の運動【体幹・脊柱・顔面・頭部 2】 体幹・脊柱・顔面・頭部の構造・機能について理解し、その役割を説明できる。
4	運動学 4	姿勢 基本的な立位姿勢について理解し、ヒトの姿勢の観察を通じてこれを想起できる。
5	運動学 5	歩行 1 歩行についての基本的な事項を理解できる。
6	運動学 6	歩行 2 歩行についての基本的な事項を理解し、ヒトの歩行の観察を通じてこれを想起できる。
7	運動学 7	運動発達・運動学習 運動発達や運動学習の方法・過程について理解し、これを想起できる。
8	運動学 8	運動学総論 ヒトの運動にまつわる諸要素を理解し、ヒトの動きを運動学的用語を用いて説明できる。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名 【英】	柔道整復応用講座 2 Course of Judo Therapy Advanced 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単位	1
学年	2	学期	後期	曜日	月曜日	時限	3.4

担当教員	山本 貴啓	実務者経験	1999年理学療法士免許。総合病院、通所リハ、特養、訪問リハの実務経験。2006年介護支援専門員。PT養成校（専門学校・大学）教員。
------	-------	-------	--

学習内容	リハビリテーション医学の対象となる主要な疾患ごとのリハビリテーションの内容を理解する。 柔道整復師としてリハビリテーション専門職と関わるときの共通言語の理解に繋げる。
到達目標	主要な疾患でのリハビリテーションを理解し説明することが出来る。 専門用語を理解し説明することが出来るようになる。

準備学習 時間外学習	復習に重点を置き、講義内で示された専門用語を調べ、ノートにまとめる。
使用教材	教科書『リハビリテーション医学改訂第4版』（南江堂）配付資料
留意点 備考	疾患別の講義については、一般臨床医学、病理学、運動学等の教科書持参を指示することがある。

成績評価	期末テスト100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	運動器障害 1	骨折・変形性関節症・骨粗鬆症 高齢者の骨折・骨粗鬆症について説明できるようになる
2	運動器障害 2	上肢の運動器疾患 上肢の運動器疾患とそのリハビリテーションについて説明できるようになる
3	運動器障害 3	下肢の運動器疾患 下肢の運動器疾患とそのリハビリテーションについて説明できるようになる
4	運動器障害 4	体幹の運動器疾患 体幹の運動器疾患とそのリハビリテーションについて説明できるようになる
5	内部障害 1	呼吸機能障害・COPD・在宅酸素療法 呼吸機能障害を説明できるようになる
6	内部障害 2	心疾患リハビリテーション・運動処方 心臓機能障害を説明できるようになる
7	スポーツ・障害者スポーツ	スポーツリハビリテーション・障害者スポーツ スポーツリハビリテーション・障害者スポーツについて概説できるようになる
8	試験解説・まとめ	後期試験解説 後期で学習した範囲が説明できるようになる
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名 【英】	柔道整復応用講座 4 Course of Judo Therapy Advanced 4			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	2	学期	前期	曜日	木曜日	時限	3.4

担当教員	高橋 秀郎	実務者経験	医療法人 淳良会関目病院にて脱臼、骨折の整復固定 手術助手 手術後のリハビリテーション担当 1993年9月～2013年4月
------	-------	-------	---

学習内容	柔道整復師の業務に必要な整形外科疾患の知識を得る。 柔道整復業務に必要な情報のやり取りを整形外科医と行う為の基礎知識を学ぶ
到達目標	国家試験整形外科分野の正答率80%を目指す 患者の状態から正しい病態把握ができるようになる 外傷だけでなく整形外科疾患全般の知識を身に着ける

準備学習 時間外学習	解剖学の骨、筋の知識の復習
使用教材	柔道整復学校協会 整形外科学
留意点 備考	教科書を熟読すること。 板書の書き写しは強制しない。書き写しに気を取られ解説の理解が疎かにならないようにする事

成績評価	定期試験 筆記100%
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	骨・関節損傷総論	整形外科的治療法 骨・関節損傷総論 骨・関節損傷の概要を説明することが出来るようになる
2	骨折合併症・観血的治療法	骨・関節損傷総論 骨折合併症・観血的治療法 骨折合併症の諸注意と観血的治療の概要を説明することができる
3	骨・関節損傷総論	骨・関節損傷総論 小児骨折の特徴 開放骨折 疲労骨折の概要を説明することが出来るようになる
4	スポーツ整形外科総論	関節の損傷 スポーツ整形外科総論 関節損傷の定義 スポーツ整形の領域について説明できるようになる
5	リハビリテーション総論	スポーツ整形外科総論 リハビリテーション総論 変形・拘縮のリハビリテーションの手順を説明できるようになる
6	リハビリテーション総論	リハビリテーション総論 術後リハビリテーションの手法、スポーツリハビリテーションを説明することが出来るようになる
7	復習	総復習 知識の整理
8	疾患別各論 1	感染性疾患、骨腫瘍、軟部腫瘍について説明することができる。
9	疾患別各論 2	非感染性骨疾患、全身の骨・軟部疾患について説明することができる。
10	疾患別各論 3	骨端症、四肢循環障害、神経・筋疾患について説明することができる。
11	身体別各論 1	頸部、胸部、腰部の損傷について説明することができる。
12	身体別各論 2	肩甲帯および上肢の疾患について説明することができる。
13	身体別各論 3	肩甲帯および上肢の疾患について説明することができる。
14	身体別各論 4	骨盤および下肢の疾患について説明することができる。
15	身体別各論 5	骨盤および下肢の疾患について説明することができる。

科目名 【英】	柔道整復応用講座 6 Course of Judo Therapy Advanced 6			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	2	学期	後期	曜日	水曜日	時限	1.2

担当教員	坂口 道倫	実務者経験	外科学の臨床および研究を30年間おこなっている
------	-------	-------	-------------------------

学習内容	外科学を学び柔道整復の臨床に応用できるように基礎知識を身につける。
到達目標	前期範囲を含めて自ら考えて説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	授業同様、自学習において自ら考える力を養うことを望む
使用教材	外科学概論 改訂第4版 南江堂
留意点 備考	

成績評価	定期試験（80%）＋中間・確認テスト（計20%）で総合評価する。
------	----------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	外科学総論 1	損傷と創傷 損傷の分類を説明できる	
2	外科学総論 2	熱傷、炎症、腫瘍 熱傷の分類を説明できる	
3	外科学総論 3	消毒、麻酔、手術 消毒薬と特徴について説明できる	
4	外科学総論 4	ショック、輸液、心肺蘇生 ショックの定義を説明できる	
5	外科学総論 5	移植、出血と止血 移植の用語を説明できる	
6	外科学総論 6	総論まとめ 総論の要点をまとめ、説明できる	
7	外科学総論 7	総論テスト（中間テスト） 中間試験で及第点がとれる	
8	外科学各論 1	脳神経外科疾患 主な脳神経疾患の種類を挙げることができる	
9	外科学各論 2	甲状腺、胸壁・呼吸器疾患 胸部損傷での注意点を説明することができる	
10	外科学各論 3	心臓・脈管疾患 ASO, TAOの相違点を説明できる	
11	外科学各論 4	乳腺疾患、腹部疾患 腹部疾患の症状を説明できる	
12	外科学各論 5	腹部疾患 腹部疾患における注意点を説明できる	
13	外科学各論 6	各論まとめ 各論の要点をまとめ、説明できる	
14	外科学各論 7	外科学まとめ、受験の心構え 医療者としての心構えを示すことができる	
15	学年末まとめ	試験実習 1 模擬試験で及第点がとることができる	